

女子学院中-対策法

国語（100点/40分）

【1】【2006年出題内容】

2006年は小問数が35題、漢字の書き取りが4題の合計39題が出題されました。1問あたり約75秒弱で解かなければならない計算となります。内容は、①随筆文(本川達雄「おまけの人生」約1800字)、②随筆文(辰濃和男「漢字の楽しみ方 悪字の数々を弁護する」約1500字)、③随筆文(青木奈緒「うさぎの聞き耳」約1300字)、④漢字の書き取り、でした。レベルは標準的でしたので、合格点は75%程度だと考えられます。

【2】【傾向と対策】

JGの設問は、「書き抜き」と「条件記述」と「言い換え」からなります。「書き抜き」と「条件記述」については答えやすいと思われます。これに対して、下に掲げたような「言い換え」については、字句の本来の意義だけでなく、それが問題文でどのような意味をもつのかを具体的に見抜かないと正解にたどりつくことはできません。

- 一 問一 傍線①「技術者までもが消耗品となる」とは、どういうことですか。
- 問五 傍線④「機事」とはどういうことですか。
- 問九 傍線⑦「時間はうわすべりに流れていく」とはどういうことですか。
- 二 問四 傍線④「緑色の秘密」とはどういうことだったのですか。
- 問七 傍線⑦「一筋縄ではいかない」とは、どういうことですか。
- 三 問一 傍線①「脱皮」とありますが、何がどうなることですか。

他方、大問一の間十一のように「この文章全体を通して、筆者の最も言いたいことは何だと思えますか」という全体把握の出題もあります。この問いの「最も」という点を見逃してはなりません。出題意図は「問題をメリハリをもって読み、論点を正確に把握しなさい」ということにあるのです。

以上のように、JGの場合、部分的にも全体的にも問題文を正確に分析できる力が要求されます。ただ、40分という短時間で大問3題を処理しなければならないことを考えると、実際の試験現場では問題を読みながら同時進行で問いを消化せざるを得ないので、相当高度な集中力が必要です。普段から1000字～1500字の長文を、「なぜ～なんだろう」「この字句の意味は何だろう」「この表現を自分でも使ってみよう」というように、しゃぶりつくすような勉強姿勢がJG合格への王道です。

国語の詳しい勉強法については、

⇒ [永田先生\(日能研\)の国語教室](#)

⇒ [国語偏差値20アップ学習法](#)

を参照してください。

【3】【 JG国語 合格への道程 】



合格可能性 80%



合格可能性 50%



合格可能性 10%

偏差値 (四谷) 君の学年	51~55	56~60	61~65	66~70
5年生の2学期				
5年生の3学期				
6年生の1学期				
6年生の2学期				

JGの80%合格圏(4科)は、四谷大塚で偏差値70以上、センター模試で偏差値65以上、サピックスで偏差値58以上、が目安です。

JGを受験するにあたっては、算数もそうですが、夏前と夏以降の学習計画をしっかりと組み立てておく必要があります。夏前には基本的なスキルを確実に身につけることができれば、夏以降にスピードや正確さの向上に専念できるからです。女子の中にはもともと国語のセンスのある生徒も多いですから、もし君が国語が苦手な人ならば、人一倍危機感をもって計画を立て直しましょう。